



1 放送による聞き取りテスト (12点)

【ノート】

ノート1

X とは

小説や詩、絵画、彫刻、音楽などの  
作品を創作した人に与えられる権利

侵害すると著作者から損害賠償の請求をされたり  
罰金や懲役刑が科せられたりする

ノート2

①他人が書いたSNSの投稿をコピーして、  
自分のものとして投稿する

②好きな曲の歌詞を自分のブログに掲載する

③録画したテレビ番組を、友人だけが見られるよう  
限定して動画サイトに載せる

ノート3

2 次の各問いに答えなさい。(18点)

問一 次の(1)～(6)の——の漢字の読みがなを書け。  
また、(7)～(12)の——のカタカナの部分かかしよを楷書で漢字に書き改めよ。

- (1) 業務の一部を委嘱する。
- (2) 作文を添削する。
- (3) 固唾を飲んで見守る。
- (4) ふるさとに赴く。
- (5) 朗らかな性格。
- (6) 言葉巧みに説得する。
- (7) センモン家の意見。
- (8) リンジの出費。
- (9) テレビのシチヨウ率。
- (10) 二束サンモンで売る。
- (11) ネビきされた商品。
- (12) アワただしい毎日。

問二 次の——のカタカナを漢字で表したとき、その漢字と同じ漢字が使われている熟語はどれか。

- (1) 偉人の考えにケイ発される。  
① 契約      ② 携行      ③ 啓蒙      ④ 休憩
- (2) 梅雨前線が停タイしている。  
① 代替      ② 滞納      ③ 勤怠      ④ 耐久
- (3) ケン明な処置がとられた。  
① 賢者      ② 儉約      ③ 兼用      ④ 点検

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(8点)

I 次の文章は『枕草子』の一節で、梨の花について述べている。

本当に、葉の色からして、

愛らしげなく見えるが、中国ではこの花をこの上ない

げに、葉の色よりはじめて、あいなく見ゆるを、もろこしには限りなき

ものとして、漢詩にも詠み作るのは、やはりそうであつても、わけがあるのだろうか、して見ると

ものにて、文にも作る、なほさりとも、やうあらむと、<sup>1</sup>せめて見れば、

花びらの先の方に、趣のあるいろつやが、

あるかなきかについているようだ。

花びらの端に、をかしきにはひこそ、<sup>1</sup>こころもとなうつきためれ。

楊貴妃の帝の御使ひにあひて泣きける顔に似せて、「梨花一枝、春、

並々のことではないだろうと思うと、やはり

雨を帯びたり。」など言ひたるは、おぼろけならじと思ふに、なほ

とてもすばらしいことは、

たぐいあるまいと思われる。

いみじうめでたきことは、たぐひあらじとおぼえたり。

II 次の漢詩は、玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を描いた「長恨歌」の一

節で、玄宗皇帝の使者と出会ったときの楊貴妃の姿を描いている。

風が仙女の衣のたもとを吹き上げてひらひらとひるがえり、<sup>(注1)</sup>あたかもあの霓裳羽衣の舞のようである。

風吹仙袂飄飄舉 猶似霓裳羽衣舞

美しい顔は寂しげで、涙がとめどなく流れ、

玉容寂寞淚闌干 梨花一枝春帶雨<sup>2</sup>

(注1) 薄絹などで作った、女性の美しくて軽やかな衣装のこと。

問一 やうあらむ<sup>1</sup> を現代仮名づかいで書け。

問二 梨花一枝春帶雨<sup>2</sup> に付ける返り点はどれか。

- ① レ点 ② 一二点 ③ 上下点 ④ 甲乙点

問三 IとIIについて述べた次の文章で最も適切なものはどれか。

① IとIIの内容から、Iが書かれた当時は日本と「もろこし」  
との文化交流が盛んで、互いの文化に大きな影響を及ぼし  
あつていたことがわかる。

② Iは梨花の花の美しさを再発見した作者の感興が軽妙に描か  
れているが、IIでは、楊貴妃の美しさが風物に例えられ、重  
厚な描き方である。

③ Iでは梨花の花の美しさがわからない日本人を批判的に描く  
とともに、IIでは花の美しさに感動して涙を流す楊貴妃の様  
子が描かれている。

④ Iで述べられている「もろこし」の「文」とはIIの長恨歌  
のことであり、梨花の花に降りかかる春の雨は楊貴妃が流す涙  
の比喩となっている。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(28点)

(設問の都合で、原文を一部省略した箇所がある。)

どういう気まぐれか、中川先生が輪島のおっさんを先発出場させた。ライトで九番。中川先生は二回戦の相手も楽勝と踏んで、三年間畑の中の球拾いばかりで試合に出ることのなかった輪島に大人としての温情をみせたのだろう。中川先生にそんなやさしさがあったなんて、とぼくたちはまずそのことにおどろいた。あの(注)中体連での中川先生はいったい何だったのだろうか？ 本当に大人の考えていることはわからない。それに正直いってぼくたちは少し「X」だった。輪島が入ったことで負けるということはないだろうけど、もしも、ということがあるよなあ、とみんなの顔に書いてあった。ライトに打球が飛んだだけでヘタをすればホームランになってしまうのだ。大量リードしていて、どう転んでも負けないという場面での輪島の投入ならどうってことはねえけど、いきなり先発出場はどうかなあ……。

一回の表にさっそく輪島はセンターの桜田をライトフェンスまで走らせた。不規則バウンドでセカンドの伊東の頭上を越えたゴロを輪島のやつがもののみごとにトンネルしてしまったのだ。ガチガチにかたまっていて、ボールが目の前をとおりすぎてからグラブを差した、という感じだった。ランニングホームラン。1点献上。ダッグアウトに戻ってきた輪島にさっそく笠原が噛みついた。

「このアホ！ 身体でとめるッ。お前もこいつらザルのバカヤローの仲間入りだぞ！」

「おっさん、ザル仲間にようこそ！」

すかさず輪島にライトの守備位置をあげわたした力石がまぜっか

えした。

おう、そうだぜ、とぼくたちはまたグラゲラ笑い、輪島の頑丈な肩をバシバシ叩いてやった。手荒い歓迎というやつだった。

その裏、ぼくたちはあっさりと逆転してやった。二塁ベースに笹篠、一塁ベースに東井の二人をおいて、四番バッターの笠原のやつが本当にぶっ飛ばしたのだ。

五回表の相手チームの攻撃を迎えた。0点に抑えればコールド勝ちだった。相手チームはコールド負けだけは逃れようと必死だった。ワンアウト、ランナー一、二塁。バッターが打った打球が高く放物線を描いて輪島の頭上に上がった。ぼくたちは確実に2点は入ると覚悟をきめた。センターの桜田が血相を変えて懸命にバックアップに走っていく。輪島は例によって打球をみあげて足をばたつかせている。打球をはつきりと目に捉えていない証だった。あるいは捉えているのだけれど、捕球するポイントを決められないで迷っているかだった。どっちにしろフライを捕球できる雰囲気ではなかった。思ったとおりだった。輪島は落下してきたフライにあわててグラブを差しだした。その拍子に足をもつれさせて、背負い投げでもくらったように真横に派手に一回転してしまった。相手チームのダッグアウトと応援団がどっとわいた。あわてておきあがった輪島はうしろにいつてしまったとおもわれる打球をめがけてやみくもに走りだした。

「まわれまわれ！ エラーだ！」 相手チームが活気づいた。「儲け儲け！まわれまわれ！」

バックアップに走っていた桜田がたちどまってキョロキョロあたりをみまわしている。間抜けなやつだな、バックアップに走ったというのにボールをみうしなうなんて……と舌打ちしようとして、輪島のやつがウターンをして戻ってくるのが目の隅に飛びこんできた。

なんだってあいつが逆戻りしてくるんだ？ ポカンとアホ面をさらして突っただっていろぼくたちを尻目に、輪島は傾いた眼鏡をでかい鼻の上に飛び跳ねさせ、がに股で「Y」二塁ベースを目指した。ドスン、と二塁ベースに着地した。それから審判にグラブの中のボールをかざしてアピールし始めた。

「ア、ア、アウトだ、ア、アウト！ ト、ト、ト、捕ってたんだッ、ア、アウトだ、ア、ア、アウト！」

ぼくたちは輪島の「Z」をどう喜んでいいのかわからなかった。「Z」を演じたヒーローにはちがいないけれど、あまりに喜劇的すぎる。おかしくて笑い転げたいのだが、輪島が感激に興奮しているのを見るとあからさまに笑うわけにもいかない。最後の最後に、しかも公式戦のグラウンドでみごとに念願のフライをキャッチしたのだから、本当はグラブでも放り投げて輪島に殺到していっしょに喜んでやりたいところだけど、笑うのをこらえるのに懸命でそのまま手がまわらなかった。

試合終了の挨拶でホームプレート上に整列しても、ぼくたちは下を向いたまま笑いをこらえるのに懸命だった。挨拶をし、ダッグアウトに戻りかけたけど、一人東井だけが残って輪島からボールを受け取った二塁の審判になにやら話を始めた。ダッグアウトに戻っても、輪島のやつは感動の余韻にひたつてじっとグラウンドをみつめている。ぼくたちはクスクス笑いがとまらない。中川先生もぼくたちといっしょになって笑いを噛み殺すようにクスクス笑いをしている。そんなぼくたちを汗だらけの髭面の輪島がぐるりとみまわした。「ナ、ナ、ナ、なめんじゃ、ネ、ねえぞッ、バツ、バツ、バツキヤロー！」

突然輪島が吠えた。三年間で初めての雄叫びだった。

これにはまいった。降参だった。僕たちは笑いを爆発させた。全

員が輪島に殺到した。

「アホ！」「バカヤロー！」「ボケナス！」「目立ちやがつて！」「カッコ悪かったぞ、コンニヤロ！」ぼくたちはところ構わずひっぱいてやった。今度は手荒い祝福というやつだった。

「ヤ、ヤ、やめろッ、ア、ア、アホ！」

輪島は頭をかかえて縮こまったけど、顔はうれしそうに歪んでいた。東井が走ってダッグアウトに戻ってきた。真っ直ぐに輪島のところにいって、キャッチャーミットからボールを取り出した。輪島が奇蹟をおこしたボールだった。

「おっさん」東井は輪島にボールをトスした。輪島はボールをつかみそこねて落としそうになった。「さっきのウイニングボールだ。とつとけよ」

輪島がしげしげとボールを見ている。すると輪島はボールをつかんだまま、ゆっくりと歩き出した。ベンチに座っている中川先生の前立った。

「セ、セ、先生、コ、コ、コ、これ……」

輪島はボールを差し出した。

「うん？」

「プ、プ、プ、プレゼント」

「俺に？ くれるってのか？」中川先生はおどろいて輪島をみた。

「セ、セ、先生に、オ、お礼、ナ、なんだ。オ、オ、俺のことを、チャ、チャ、ちゃんと、オ、オ、おぼえて、イ、いてくれて」

「お前……」

「ド、ド、どうしようも、ネ、ねえ、オ、俺を、ヤ、ヤ、ヤ、野球部から、オ、追いだすことを、シ、しねえでくれて」

「……」中川先生はなにもいわずじっと輪島をみている。

川上健一「翼はいつまでも」より

(注1) 中川先生は中体連の大会で、命令に従わない「ぼくたち」に怒りを爆発させ、「ぼく」を試合に出場させなかった。

問一 踏んで<sup>1</sup> 噛みついた<sup>2</sup> の本文中での意味はどれか。

- (1) 踏んで
- ① あなどって
  - ② 見当をつけて
  - ③ 計算をして
  - ④ 足の下に敷いて

- (2) 噛みついた
- ① 罵倒した
  - ② 傷をつけた
  - ③ 責め立てた
  - ④ 痛めつけた

問二 X Y にあてはまる言葉として最も適切なものはどれか。

- X
- ① 偏屈
  - ② 滑稽
  - ③ 不安
  - ④ 不満

- Y
- ① 丁寧に
  - ② 熱心に
  - ③ 無造作に
  - ④ 懸命に

問三 おっさん、ザル仲間によっこそ！ と発言した力石の意図は何か。<sup>3</sup>

- ① ボールをとめられず笠原にザル呼ばわりされた輪島に同情し、チームの連帯感を取り戻そうとした。
- ② ミスを責められて気後れしている輪島を茶化すことで、チームの楽勝ムードを引きしめようとした。
- ③ 自分の守備位置を奪われた腹いせに、エラーをした輪島を笠原と一緒に徹底的に痛めつけようとした。
- ④ 笠原の発言にあえて口をはさんでからかうことによって、輪島を励まし、秀囲気を明るくしようとした。

問四 必死<sup>5</sup> と同じ構造の熟語はどれか。

- ① 日没
- ② 予告
- ③ 握手
- ④ 進退

問五 ポカンとアホ面をさらして突っただっている とはどのようなことか。

- ① 打球を追わない理解不能な輪島の行動に、皆が憤りを感じているということ。
- ② 突然Uターンしてくる輪島を、皆が呆れた顔で見守っているということ。
- ③ 輪島がフライを捕球できたことが信じられず、全員が戸惑っているということ。
- ④ 輪島の行動の意図がわからず、皆が驚きと困惑を隠せないでいるということ。

問六 Zに入る漢字二字の熟語を本文中から抜き出して書け。

問七 一人東井だけが残ったのはなぜか。

- ① 輪島が最後に捕球したボールがどうしても欲しくなつて、ほかの部員に気づかれぬように交渉するため。
- ② 輪島の捕球がいまだに信じられず、アウトになつて試合終了になつたことを確認しないわけにはいかなかったため。
- ③ 輪島が、初めての公式戦で初めて捕球できたボールを審判から受け取り、輪島に記念として渡そうと考えたため。
- ④ 輪島にとつて、最後に捕ったボールが野球人生最後の記念になると考え、部活動引退の思い出にさせようとしたため。

問八 手荒い歓迎というやつだった と 手荒い祝福というやつだった というのはどのような違いがあるか。

- ① 「歓迎」というのは、まだ試合の雰囲気慣れていない輪島を励まし、勇気づける行動であるが、「祝福」というのは、チームの勝利に貢献した輪島と喜びを分かち合うための行動である。
- ② 「歓迎」というのは、さつそくエラーをした輪島を懲らしめるための儀式であるが、「祝福」というのは、馬鹿にされて感情を爆発させた輪島をなだめるためのチームメイトの気遣いである。
- ③ 「歓迎」というのは、緊張のため本来のパフォーマンスを發揮できない輪島をリラックスさせる効果があり、「祝福」というのは、本来の実力で勝利に導いた輪島に対する感謝の意味がある。
- ④ 「歓迎」というのは、ミスをして落ち込んでいる輪島を前向きな気持ちになるように背中を押す行動であり、「祝福」というのは、チームに勝利をもたらした輪島を皆が認めた証である。



問九 次の文章は、三十年後に同窓会が開かれた場面である。小説の読後の感想を述べているAさんからFさんの発言の中で、本文の内容に合致するものはどれか。

「輪島君。野球部のみんな。このボールをおぼえていますか？ あ  
のときのボールだぞ」

もちろん。だが中川先生がそういつてから思い出しただけで、そのことをずっと忘れなかったというわけではない。当の輪島も含めて全員が、中川先生がボールをみせてそう呼びかけるまで忘れていたことだろう。そのボールがどんなボールなのか、いきさつがわからない野球部以外の同期生に中川先生は少し説明してからいった。

「わたしは、このボールのおかげでここまで教師をつづけてこられました。あのとき輪島君には、持っていつて神棚に飾っておけといつたけど、神棚に飾つて毎日拜んでいたのはわたしのほうでした。いまでもそうです。輪島君がプレゼントするといつてくれたときは、本当はすごくうれしかった。教師になつて初めて生徒から学んだ大きなプレゼントだった。だけどあのときはわたしも若くて、輪島君や野球部のみんなにありがとうというのが照れくさくて、とうとういえなかった。このボールは、教師というものが生徒にとつてどういうものであるのかといふことや、教師としての勇氣といふことを、三十年間、わたしに語りかけてくれたんだ。あれから三十年、みんなにもいろんなことがあつたと思うけど、先生にもいろんなことがあつた。苦しいことがあつたり、しんどいことがあつたり、このボールは先生の支えになつてくれた……。いまここで改めてお礼を言いたい。ありがとう輪島君。ありがとう、野球部のみんな。」

① Aさん：輪島の先発出場は中川先生の気まぐれではなく、たとえ試合に負けても、三年間畑の中でボール拾いを続けた輪島にも最後に活躍の場を与えようとしたんだと思う。

② Bさん：いや、輪島を出場させたのは中川先生の単なる気まぐれだつたと思うけど、そこで劇的なドラマが起こつたんだから、現実には何が起こるかわからないところが面白いよね。

③ Cさん：私はそのことより、輪島が最後中川先生にボールを手渡した場面が印象的だつたよ。感謝の言葉を素直に言えない輪島の様子と仏頂面の中川先生が目に見えかぶようだった。

④ Dさん：輪島の三年間の地道な努力が最後に報われたんだ。だから最後まで諦めなければ、必ずチャンスがめぐつてくるといふことをウイニングボールは象徴しているんじゃないかな。

⑤ Eさん：中川先生は若いころは偏屈で、生徒と心を通じ合わせるができずにいたけれど、三十年後は穏やかで素直に気持ちを打ち明けられる人になつたみたいで良かったね。

⑥ Fさん：語り手の「ぼく」は、物語を客観的に淡々と述べているけど、乱暴でぞんざいな言動部分もみられて、それがこの小説の爽やかで初々しい印象につながっている気がするな。

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(34点)

なお、本文中の『パンダコパンダ』は高畑勲監督によって一九七二年十二月に公開されたアニメーション作品である。登場人物のミミ子は両親がいない小学生であり、一緒に住んでいるおばあさんが長崎へ法事に出かけてしまったため、竹藪に囲まれた家で一人きりで暮らすことになった。そこへ人語を話す子供のパンダのパンとその父親パンダのパパンダを訪れ、共同生活を送ることになる物語である。

(設問の都合で、原文を一部省略した箇所がある。)

①『パンダコパンダ』という天秤の二つの皿には、二つの重りが載っている。一つはミミ子を取り巻いている普通の現実の要素、もう一つにはパパンダ、パンちゃんに代表される非現実の要素だ。『パンダコパンダ』の世界は、この二つの重りの微妙な均衡によって成り立っている。

②この天秤が非現実のほうへと振れると、『パンダコパンダ』の世界はマンガ的でユーモラスな色彩を帯びる。I. パパンダが大きな口で竹をバリボリとかじるシーンなどはその代表だろう。その時パパンダは「パンダをデフォルメしたキャラクター」という枠を飛び越え、もつとマンガ的でユーモラスな存在、「パパンダ」そのものとしてそこに存在しているのだ。

③逆に天秤が現実のほうへと大きく傾く時もある。作中で現実の色が濃くなるシーンは、物語の転換点が多い。現実はそこで、水に落ちた一滴の絵の具のように、作品の色合いを変化させ、ミミ子とパパンダたちの平和な共同生活を脅かすことになる。『パンダコパンダ』では、そんな場面が三回ある。

④一つ目は、ミミ子が「お父さんは会社へ行くものよ」とパパンダに言う場面。両親のいないミミ子は、おそらく自分の願う当たり前の日常をパパンダに思わず望んでしまったのだろう。しかしいくらパパンダがミミ子のパパになる約束をしても、パパンダに通う会社などあるわけがない。それが現実だ。パパンダはミミ子の言葉に「会社へ行くパパはこのパパでしょうか？」と困惑を隠し切れない。

⑤もう一つは、クライマックスにあたる、パパンダのもとに動物園の園長さんがやってくるシーン。園長さんとパパンダの会話から、パパンダとパンちゃんが実は動物園から逃げ出したパンダであることが明らかになる。園長さんは動物園に戻るように依頼し、パパンダはパンダでしかないという当たり前の事実が、はっきりと示され、三人の家族生活は最大の危機を迎えることになる。この場面に先立って、いじめっ子にミミ子が「パンダがパパなんてへんな奴」と言われる場面もあり、いつの間にかミミ子とパパンダ、パンちゃんの三角親子関係を当たり前のものだと思いついていた観客は、急に現実を引き戻されることになる。

⑥また二つのシーンとは少し傾向が違うが、パンがミミ子の学校で迷子になってしまうシーンも、パンという非現実と学校という現実が出合うシーンと見ることが出来る。パンのような非日常的な異分子が日常の中に紛れ込んだからこそ、学校は大騒ぎになってしまったのだ。

⑦現実の存在感が重くなる三つのシーンは、三人の楽しい家族生活が所詮「ごっこ」遊びでしかないことを思い起こさせる。

⑧当たり前のことだが、非現実と現実とは本来相容れない。現実的な視点に立てば、言葉をしゃべるパパンダなどナンセンスで「まるでマンガのようなキャラクター」にすぎないし、逆に非現実と対比すると、現実というのは当たり前でとるに足らないものに見える。天秤

の上で非現実と現実がバランスをとり合うということはなかなかない。普通、非現実と現実が直接出合った時には皮肉な物語しか生まれないのだ。たとえば、藤子・F・不二雄が自作『オバケのQ太郎』のパロディとして描いた『劇画オバQ』はまさにそこを題材にした作品だった。これは、Q太郎が成長した正太と再会する短編だ。正太はローンに苦しむ普通のサラリーマンになっており、Q太郎は現実の世界の中であまりに非現実的な（マンガ的な）キャラクターとして、その世界そのものから拒絶されてしまう。

9 II 『パンダコパンダ』では現実が顔を覗かせても、『劇画オバQ』のような不幸な出来事は起きない。現実は三人の幸福な時間を脅かしはするのだが、現実と非現実の衝突はすんでのところ回避され、現実の側へ傾いた天秤は再びバランスを取り戻すのだ。

10 では、どうして『パンダコパンダ』の中で現実と非現実のバランスがとれているのだろうか。それはミミ子とパパンダがそれぞれの役割を「本気で演じている」からだ。演技には、演技の内容そのものは虚構だが、「演技をしている私」は真実であるという、二つの側面が常にある。『パンダコパンダ』では、二人が本気でパパとママを演じることで、非現実と現実がぶつかり合うのではなく、美しく結び合わされているのだ。

11 そもそも思い出してみれば『パンダコパンダ』は「演じる」ことから始まった物語だ。パパンダが「パパがママになるのは大変ですが、お父さんになるのは簡単です」という愉快なセリフを語り、ミミ子のパパを演じ始めたあの瞬間、人語を解するパンダという非現実な存在は、ミミ子のパパとしてミミ子の現実に入り込んできたのだ。

12 III 現実と非現実のバランスが崩れたならば、再び、何かを演じることで、現実と非現実の関係を結び直してやればいいのだ。

そして事実、ミミ子とパパンダはそのようにして、危機を乗り越える。

13 「パパは会社に行くもの」と思わず口にして、行く会社のないパパンダを困らせてしまったミミ子。しかしミミ子は、即座に「わたしって忘れっぽいよね。今日はパパの会社お休みなよ」と、アドリブで「脚本」を書き換える。パパンダは行く会社がないという現実をミミ子に告げずに済んだため、ホッとした顔で「おお、そうです。ずーっとお休みなのです」とミミ子に答える。ここでパパンダが演じる役割は「単なるパパ」から「ずっと会社がお休みのパパ」に変わる。こうして役割を修正していくことで、本来は相容れるはずのない会社という現実とパパンダという非現実が天秤の上で釣り合うようになるのだ。

14 パンもちろぬ「演技」をしている。学校という現実の中にいる時、パンはぬいぐるみのふりをしたり、モチに間違えられたり、カレーをかぶってクマと呼ばれたりしている。パンは、パンダではない別のものになることで、かろうじて現実に生きる先生や子供たちの常識の範囲に収まることのできているのだ。

15 こうした「演技」がもつとも力を発揮するのは、パパンダが決断を迫られるクライマックスだ。パパンダとパンは動物園に戻らなくてはならない。同時にパパンダとパンはミミ子と親子でもある。園長に動物園に戻ることを迫られた時、パパンダは一旦答えを保留する。なぜならパンが行方不明で、それどころではなかったからだ。そして水門の滝に落ちそうになるパンの救出劇を経た後、シーンが変わってパパンダのその後が描かれる。

16 パパンダは動物園にいる。動物園には大勢のお客が集まり、とても人気を集めていることがわかる。やがて夕方になると、パパンダはタイムカードを押して、帽子を頭に載せ動物園を出ると、電車に

乗り込む。パパンダは、まるでサラリーマンのように、ミミ子の家から通勤しているのだ。動物園で「パンダ」を演じ、家に帰って「パパ」を演じる。ここでは前半の「会社がお休みのパパ」を伏線にしつつ、「動物園で働いているパパ」へと再び役割の変更が行われている。

[17]前半の会社をめぐるミミ子とパパンダのやりとりはハラハラする内容だった。それは「パパンダが働く会社なんてあるわけではない」と観客は知っているからだ。だからパパンダの戸惑いに緊張し、ミミ子の機転にホッとす。

[18]しかし、それはこのラストで鮮やかに裏切られる。逃げ出してきた場所だった動物園が、会社として新たな役割を与えられて再登場するのだ。「パパンダが通える会社がある」。この役割の大転換にはとても大きなカタルシスがある。こうして新しい役割を手に入れたパパンダは、一度、バランスを崩した現実と非現実を見事に結び合わせる。物語の天秤は幸福なバランスを回復し、映画はハッピーエンドで締め括られるのだ。

—— 藤津亮太『「アニメ評論家」宣言』より ——

(注1)『オバケのQ太郎』——藤子不二雄による漫画。小学生の大原正太の家庭にオバケであるQ太郎が住み着き、様々な騒動を引き起こす様を面白おかしく描く。

問一 均衡<sup>1</sup> | カタルシス<sup>11</sup> | の本文中での意味はどれか。

- (1) 均衡
- ① 争い続けること
  - ② 同じ性質であること
  - ③ つり合いがとれること
  - ④ 常に一定であること

- (2) カタルシス

- ① 話し合いの場
- ② 行動の指針
- ③ 意思決定の仕組み
- ④ 精神の浄化作用

問二 空欄 I | II | III | に入る語の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

- ① I たとえば | II しかし | III だから
- ② I たとえば | II なぜなら | III さて
- ③ I だから | II しかし | III さて
- ④ I つまり | II なぜなら | III たとえば

問三 水に落ちた一滴の絵の具のように 2  
という比喩は後の文のど  
の文節にかかるか。

- ① 色合いを
- ② 変化させ
- ③ 平和な
- ④ 脅かす

問四 そんな場面 3  
とはどんな場面か。

- ① 危機的状況に陥った登場人物が、現実的な解決策をとること  
でその場を乗り切る場面。
- ② 作品の中で大きな危機が起こり、登場人物が変化していか  
ざるを得ないような場面。
- ③ 作品の中の現実的な要素が大きくなり、物語の大きな転換  
が起きるような場面。
- ④ 非現実的な出来事が一切起こらず、まるで現実のような描  
写しかされない場面。

問五 非現実と現実が直接出合った時には皮肉な物語しか生まれな  
い 4  
とあるが、『劇画オバQ』ではどのような結末になったと  
予想できるか。

- ① 非現実の象徴であるQ太郎が、現実に重きが置かれた物語  
世界から退場させられる結末。
- ② 現実と非現実がバランス良く混じり合い、Q太郎が物語の  
世界を生き延びていく結末。

- ③ 物語の現実がQ太郎の非現実性に塗りつぶされ、マンガ的  
な色が濃くなっていく結末。
- ④ 一時は現実との親和を見せたQ太郎が違和感を持ち、正太  
と協力して逃げ出す結末。

問六 どうして『パンダコパンダ』 5  
の中で現実と非現実のバランス  
がとれているのだろうか とあるが、その答えを「〜から。」  
に続くように本文から三十字以内で探し、最初と最後の三字を  
抜き出せ。(句読点も字数に含む)

問七 “脚本” 6  
を書き換える とはということか。

- ① 観客を物語に熱中させるために、物語の展開上必要不可欠  
となるであろう伏線を張っておくこと。
- ② 物語を最後まで無事に完結させるために、登場人物が今後  
目指すべき目標を次々作っていくこと。
- ③ 現実と非現実をはっきりと区別するために、登場人物が自  
覚しているストーリーの流れを明確にすること。
- ④ 非現実を現実とうまくすり合わせるために、物語内で登場  
人物が守るべき設定を変えること。

問八 「演技」<sup>7</sup> 「演技」<sup>8</sup> と二種類の書き方がされているが、その違いを説明したものととして適当なものを選べ。

- ① 「演技」も「演技」も一般的に使われている言葉としての演技ではなく、「演技」はパンが無意識的にパンダから何か別のものに変身することを指しており、「演技」は登場人物そのものが別の誰かに変わってしまい、もう元の存在には戻れないのだということ指している。
- ② 「演技」も「演技」も一般的に使われている言葉としての演技ではなく、「演技」はパンが意図的かどうかに関わらず結果的に別のものとして現実に受け入れられていることを指しており、「演技」は登場人物の役割がこれまでと異なるものに変わっていることを指している。
- ③ 「演技」はパンが自分から何か別のものを演じているのだという一般的に使われている言葉としての演技を指しており、「演技」はパンダやミミ子が強制的に何か別の役割が押しつけられ、結果的にこれまでと違う人物になってしまっていることを指している。
- ④ 「演技」はパンがただのパンダから自ら演技をするパンダへと役割自体が変更されたことを指しており、「演技」はパンダやミミ子が自分から何か別のものを演じているのだという一般的に使われている言葉としての演技を指している。

問九 役割の変更<sup>9</sup> とあるが、パパンダと動物園の役割はどのように変更してきたか。次の空欄に当てはまる語を本文中から抜き出せ。

パパンダ

単なるパパンダ ↓ ( )

① ( ) ↓ ( )

( ) ↓ ( )

② ( )

( )

動物園

パンとパパンダが ( )

③ ( ) ↓ ( )

( ) ↓ ( )

④ ( )

( )

問十 それはこのラストで鮮やかに裏切られる<sup>10</sup> の文の文法的な説明として適切でないものを選べ。

- ① 八つの単語に分けられる。
- ② 受身の意味の助動詞「れる」が使われている。
- ③ 下一段活用の動詞が一つ使われている。
- ④ 形容動詞が一つ使われている。

問十一 本文を意味段落で三つに分けると、どのような分け方になるか。

- |    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| ④  | ③  | ②  | ①  |
| 1  | 1  | 1  | 1  |
| ↘  | ↘  | ↘  | ↘  |
| 7  | 9  | 3  | 6  |
| ・  | ・  | ・  | ・  |
| 8  | 10 | 4  | 7  |
| ↘  | ↘  | ↘  | ↘  |
| 9  | 12 | 9  | 15 |
| ・  | ・  | ・  | ・  |
| 10 | 13 | 10 | 16 |
| ↘  | ↘  | ↘  | ↘  |
| 18 | 18 | 18 | 18 |



